Center for Statistics and Information
Rikkyo University

2017年度

活動報告書

CSI Activity Report

April 2017 - March 2018

立教大学 社会情報教育研究センター

立教大学　社会情報教育研究センター

2017 年度　活動報告書

April 2017 - March 2018

CSI Activity Report

目次　Contents

1　2017 年度の主な事業活動 1

2　各部会の事業計画および事業報告 7

1）　政府統計部会 9

2）　社会調査部会 13

3）　統計教育部会 17

3　資格支援事業 25

1）　社会調査士資格支援 27

2）　統計検定支援 30

4　教育支援事業 31

1）　正課科目の開発・提供 33

1）　各種コンテンツの開発および改修 34

2）　コンペティション参加を希望する学生への教育指導 34

5 研究支援事業 35

1）　調査研究コンサルティング 37

2）　統計セミナーサポートスタッフ 38

3）　対外連携活動 38

6　出版物 39

7　組織図および構成メンバー 43

1

2017 年度の主な事業活動

1　2017 年度の主な事業活動

2017 年

4 月

17 日	統計検定　学内申込受付開始（～5 月 10 日）
18 日	統計検定対策ガイダンス：新座キャンパス
19 日	第 1 回 CSI センター運営会議
	統計検定対策ガイダンス：池袋キャンパス

5 月

9 日	春学期 CSI 統計活用セミナー①：web コンテンツを使った統計活用の最前線
11 日	第 1 回 CSI センター連絡会議
16 日	春学期 CSI 統計活用セミナー②：疑似データによるミクロ計量
22 日	IASSIST 学会出席：朝岡助教・濱本助教（～5 月 27 日　アメリカ・カンザス）
29 日	東温市受託事業　追加調査のための東温市出張（菊地・濱本・小西・浅井）（～5 月 30 日）
31 日	第 2 回 CSI センター運営会議

6 月

1 日	第 1 回社会調査データ活用セミナー（講師：前田助教）
5 日	社会調査士（キャンディデイト）資格の春学期・科目証明書申請（～6 月 16 日）
9 日	春学期 CSI 統計分析セミナー（Blackboard）　全 3 回分開講
14 日	「統計調査員プロジェクト」に関するヒアリング来訪（青森県統計分析課）
18 日	統計検定　JINSE 特設会場受験　実施
28 日	第 3 回 CSI センター運営会議

7 月

1 日	共催：JMOOC「統計学Ⅲ」　対面授業
6 日	第 2 回 CSI センター連絡会議
7 日	国立情報学研究所（NII)船守准教授ほか 3 名来訪（社会調査部会対応）
	宮城県立仙台第一高校来訪（山口教授対応）
10 日	英語コンテンツ収録（Jimmy Doi 先生／～7 月 28 日）
14 日	春学期 CSI 統計活用セミナー：G-Census セミナー
28 日	SSH 高校生向け統計教育セミナー（市立千葉高等学校）　JINSE 高大連携委員との共同開催
31 日	東温市受託事業　追加調査のための東温市出張（菊地・櫻本・鈴木・倉田）

8 月

24 日　立教大学職員向け：人事研修（担当：山口教授）

28 日　立教大学職員向け：教務研修（担当：山口教授）

31 日　RUDA に関するヒアリング来訪（慶應義塾大学酒井教授ほか 3 名、社会調査部会対応）

9 月

11 日　SGH 高校生向け統計教育セミナー（長野県上田高等学校）

社会調査協会：アドバンスド社会調査セミナー（社会調査部会対応）（～9 月 14 日）

13 日　立教大学職員向け：教務研修（担当：山口教授）

25 日　統計検定対策ガイダンス：池袋キャンパス

26 日　統計検定対策ガイダンス：新座キャンパス

10 月

2 日　社会調査士（キャンディデイト）資格・社会調査士（9 月特別卒業生）の秋学期・科目証明書申請（～10 月 13 日）

4 日　第 4 回 CSI センター運営会議

5 日　第 3 回 CSI センター連絡会議

25 日　第 2 回社会調査データ活用セミナー（講師：朝岡助教）

26 日　第 1 回統計調査士対策セミナー：統計制度で点数アップ（講師：濱本助教）

11 月

2 日　東温市受託事業　成果報告のための東温市出張（菊地名誉教授・櫻本准教授ほか）（～11 月 3 日）

8 日　第 3 回社会調査データ活用セミナー（講師：前田助教）

9 日　第 2 回統計調査士対策セミナー：図表を読んで点数アップ（講師：濱本助教）

15 日　第 5 回 CSI センター運営会議

26 日　統計検定　JINSE 特設会場受験　実施

12 月

1 日　秋学期 CSI 統計活用セミナー：「秀吉」を使ったアンケート集計分析①

8 日　秋学期 CSI 統計活用セミナー：「秀吉」を使ったアンケート集計分析②

13 日　第 6 回 CSI センター運営会議

14 日　第 4 回 CSI センター連絡会議

20 日　早稲田大学科学総合研究教育センター来訪（社会調査部会および事務局対応）

2018 年

1 月

17 日　第 7 回 CSI センター運営会議

25 日　第 68 回統計セミナー開催（日本統計協会・CSI 共催）

2 月

16 日　第 8 回社会調査フォーラム（講師：大阪経済大学　石田淳氏）

28 日　社会調査士指定科目証明書申請受付（池袋・新座～3 月 9 日）

研究紀要『社会と統計』第 4 号発行

3 月

9 日　第 8 回 CSI センター運営会議

jSTAT MAP セミナー（講師：独立行政法人統計センター　羽渕達志氏）

16 日　第 5 回 CSI センター連絡会議

23 日　社会調査士資格申請書・変更届書提出期間（池袋・新座～3 月 28 日）

2

各部会の事業計画

および事業報告

1） 政府統計部会

2） 社会調査部会

3） 統計教育部会

2　各部会の事業計画および事業報告

1）政府統計部会

2017 年度事業計画

（1）統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進

① 公的統計学習コンテンツ Official Statistics Contents for Multi-user（すたまる）

② 公的統計総合学習コンテンツ Official Statistics Navigator（すたなび）

③ 将来人口推計コンテンツ Future Population Projection Contents（ポコ）

④ 経済波及効果分析コンテンツ Repercussion Effect Analysis Contents（リコ）

⑤ SPSS を利用したミクロ統計分析コンテンツ

⑥ 公的統計の二次的利用制度に関する学習コンテンツ

⑦ 統計検定・統計調査士受験学習コンテンツ

⑧ 統計検定・統計調査士得点源対策問題集

部会作成の上記①～⑧のコンテンツについて、講習会や授業内利用による経験を踏まえ、さらなる内容の改良を図る。また、教員に向けた説明会、学生に向けた講習会を開催し、利用を促すとともに教育利用の経験を集約する。⑦は改訂した上で 2017 年度中の発行を予定する。講習会は上記よりいくつか選び、春学期・秋学期に池袋・新座で随時実施する。2016 年度まで推進してきた統計地図作成ソフト（立教版 G-Census）については、システム上停止が予定されるため、2018 年度まで上級学年へのヘルプとプレゼンテーションコンテストへの協力に絞って実施する。

（2）地域における統計分析と紹介

愛媛県東温市における中小零細企業振興条例策定後の現状調査について、小地域を統計でとらえるという観点から他分野の研究者と連携し、調査・分析を進める。また、愛媛県東温市事業受託については、2017 年度も引き続き事業受託を行う。

① 事業所現状把握調査結果分析業務

② 事業所現状把握調査分析報告書作成業務

③ 事業所現状把握調査分析報告書（概要版）作成業務

④ 事業所現状把握調査結果報告会開催業務（愛媛県東温市内での開催）

（3）公的統計の二次的利用を含む個票を使用した統計データの利活用制度の推進

これまで実施してきた取り組みとして、①地域の個票データを利用したアンケート集計の教育事業、②統計作成(オープンデータも含む)実務者へのヒアリング、③アンケート集計、個票分析に必要な情報収集活動(国際ミクロデータベース)がある。こうした活動については継続して随時実施する。公的統計の二次的利用制度（匿名データ利用、オーダーメード集計）に関する紹介を行う。そのため、実際に利用を試みるとともに、利用体験を紹介する。また、二次的利用を促すため、教育用ミクロ統計分析コンテンツを活用し、その教材としての完成度を高める。

（４）CSI 統計研究会・懇話会、講習会・講演会の開催

調査統計および加工統計の作成機関の担当者を招き、統計研究会を開催する。また、統計利用とも関わる講習会・講演会を開催する。

（５）統計検定受験の促進

統計教育部会と連携し、学習意欲向上のため 2017 年度第 10・11 回統計検定の受験への事業協力を行う。学部 1 年次に 3 級、2 年次以上で 2 級・統計調査士を勧める。また、本学学生の統計調査士試験の合格率を高めるため、先の⑦、⑧を使用して学生のための支援活動を実施する。

2017 年度事業報告

（１）セミナー開催

◆CSI 統計活用セミナー（池袋キャンパス開催）

CSI 統計活用セミナーの目的は、公的統計の利活用について学習することである。春学期のセミナーでは、SPSS を使ったミクロデータ分析や G-Census を使った実践的な統計ツールの活用セミナーをおこなった。秋学期では『秀吉』を使ったアンケート集計の分析方法についてのセミナーを開催した。

1.　春学期

〈A コース〉

講義内容：WEB コンテンツを使った統計活用の最前線

開催日時：2017 年 5 月 9 日（火）　16：40～18：10

場　　所：池袋キャンパス　8 号館 8501 教室

講　　師：坂田　大輔　（社会情報教育研究センター助教）

参加人数：14 名

〈B コース〉

講義内容：SPSS によるミクロデータ分析

－立教大学教育用疑似ミクロデータを用いた演習

開催日時：2017 年 5 月 16 日（火）　16：40～18：10

場　　所：池袋キャンパス　8 号館 8501 教室

講　　師：坂田　大輔　（社会情報教育研究センター助教）

参加人数：8 名

〈C コース〉

講義内容：G-Census セミナー

開催日時：2017 年 7 月 14 日（金）　16：40～18：10

場　　所：池袋キャンパス　8 号館 8501 教室

講　　師：小西　純（統計情報研究開発センター　主任研究員）

参加人数：16 名

2.　秋学期

〈A コース〉

講義内容：『秀吉』を使ったアンケート集計・分析①

開催日時：2017 年 12 月 1 日（金）　16：40～18：10

場　　所：池袋キャンパス　8 号館 8404 教室

講　　師：菊地　進（立教大学　名誉教授）

参加人数：13 名

〈B コース〉

講義内容：『秀吉』を使ったアンケート集計・分析②

開催日時：2017 年 12 月 8 日（水）　16：40～18：10

場　　所：池袋キャンパス　8 号館 8404 教室

講　　師：菊地　進（立教大学　名誉教授）

参加人数：13 名

◆統計調査士対策セミナー

　統計検定統計調査士試験のための対策セミナーを以下のとおり開催した。オリジナルテキスト『統計調査士対策コンテンツ　第 4 版』および『統計調査士試験　得点源対策問題集』を使用した実践的なセミナーである。なお、本セミナーは Blackboard で配信を行っている。

〈第 1 回〉「統計制度で点数アップ」

　開催日時：2017 年 10 月 26 日（木）18：20～19：50

　場　　所：池袋キャンパス　8 号館 8501 教室

　講　　師：濱本　真一（社会情報教育研究センター 助教）

　参加人数：6 名

〈第 2 回〉「図表を読んで点数アップ」

　開催日時：2017 年 11 月 9 日（木）18：20～19：50

　場　　所：池袋キャンパス　8 号館 8501 教室

　講　　師：濱本　真一（社会情報教育研究センター 助教）

　参加人数：2 名

◆一般公開セミナー（池袋キャンパス開催）

　『政府統計の総合窓口 e-Stat』の全面更改に伴い、新しくなった「地図で見る統計（jSTAT MAP）」についての講義と演習をふくむ、一般公開のセミナーを開催した。

講義内容：jSTAT MAP 利活用セミナー
開催日時：2018 年 3 月 9 日（金）　14：30～17：00
場　　所：池袋キャンパス　8 号館 8506 教室
講　　師：羽渕　達志（独立行政法人統計センター）
参加人数：8 名

（2）調査・分析の受託事業

愛媛県東温市から「中小零細企業等現状把握調査」への協力依頼があり、2016 年度より委託事業を開始した。2017 年度は事業の総括として、報告書『東温市を支える中小零細企業　2016 年東温市事業所現状把握調査』および『東温市を支える中小零細企業 2016 年東温市事業所現状把握調査　概要版』を発行し、11 月 2 日に東温市において「中小零細企業現状把握調査シンポジウム」を開催した。
なお、プロジェクトメンバーは以下のとおりである。

＜プロジェクトメンバー＞
櫻本　健（政府統計部会 リーダー・経済学部 准教授）プロジェクトリーダー
菊地　進（立教大学 名誉教授）
藤野　裕（明海大学 経済学部 講師）
小西　純（公益財団法人　統計情報研究開発センター 主任研究員）
鈴木　雄大（立教大学 経済学部 助教）
濱本　真一（立教大学 社会情報教育研究センター 助教）
倉田　知秋（立教大学大学院 経済学研究科 博士課程後期課程）
則竹　悟宇（立教大学大学院 経済学研究科 博士課程前期課程）
三田　匡能（立教大学 経済学部 学生）

その他、統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進については、別途記載する。

（3）2017 年度事業を振り返って

2017 年 11 月に東温市長主催で報告会及びシンポジウムを実施でき、愛媛県東温市の委託事業で成果物を発行して成果報告ができた。報告の詳細は契約に基づき、2018 年 2 月末に提出した。統計調査士第 4 版を Amazon で売り出して多く販売できたため、最新の制度変更を追記した第 4 版第 2 刷を増刷した。統計検定では難易度の高い統計調査士合格者が学内で久々に数名出たことから、セミナーや試験対策資料が成果を上げたと判断している。2017 年度は全体としてセミナーが比較的盛況であり、統計調査士セミナーの際には、外部から受講料が入る体制を整えた。年度末に発行する『社会と統計』に無事 1 本論文を出すことができた。また、2015-2016 年度に実施した「統計調査員プロジェクト」の多くの学生たちが良い就職先に恵まれて卒業するのを見届けることができた。以上概ね計画した事業が順調に達成できた。

2） 社会調査部会

2017 年度事業計画

（1）社会調査データアーカイブ（RUDA）プロジェクト

① データ整備業務

2016 年度までに、寄託されたデータセットのうち 50 データをクリーニングし、公開した。2017 年度では、さらに 3 データセットをクリーニングする。

立教大学の社会調査士科目 G（社会調査を実際に経験し学習する科目）で蒐集された、量的な社会調査データを対象に RUDA への寄託についての意向を伺い、寄託されたデータを収集し、公開する。

② データ提供業務（データセットの一般公開）

2016 年度末において、50 データセットを公開している。2017 年度はこれに 3 セットを加え、年度末までに合計 53 データセットを公開する。

③ RUDA データの利用促進に向けた取り組み

・RUDA 広報の強化：国内／外からのデータ利用をより促進するため、現行の申請プロセスに合わせたリーフレットを作成する。

・社会調査活用セミナーの開催：

RUDA データの教育・研究利用をさらに促進するため、データの利活用に関するセミナーを開催する。具体的には、RUDA を中心としたデータアーカイブの利活用をテーマとするセミナーを年に 1 回行い、RUDA データを利用した二次分析のやり方に関するセミナーを年に 2 回行う。これらの成果を踏まえ、将来的には Web コンテンツの作成などを行い、より広範な RUDA データの利用に向けた基盤構築につなげることを想定している。

⑤ アーカイブ事業の協力体制

国際的なメタデータ基準である DDI（Data Documentation Initiative）を基盤として、国内外アーカイブとの連携事業を行い、より広範な二次利用環境の整備、そしてアーカイブ事業に関わる研究協力基盤の構築を行う。具体的には以下の 2 つの事業を行う。

・相互検索システムの構築：

RUDA と国内外アーカイブでそれぞれが所有しているデータを一元的に検索することができるシステムを構築し、網羅的・効率的なデータ検索環境の整備を行う。

・研究協力基盤の構築：

データアーカイブ運営の在り方をテーマとする研究基盤を国内外アーカイブとの共同のもと整備し、国内アーカイブ水準の改善に向けた研究発信を行う。そのために、国際会議 IASSIST にて先進的な海外アーカイブ事情を確認し、改善案を模索する。また、海外のアーカイブ研究者、または実務者を招いたセミナーを行う予定である。

（2）社会調査士資格関連事業

① 社会調査士・専門社会調査士科目申請の支援

組織会員として加入している社会調査協会に対し、学内における一元的な連絡責任者として、学部・研究科内の学内連絡責任者と連携して社会調査士・専門社会調査士カリキュラムの科目申請事務を行う。ま

た、学部・研究科が設置する資格対応科目の認定申請に関する相談受付などの諸支援を行う。

② 社会調査士・専門社会調査士取得申請の支援

教務事務センターと連携して学部学生・大学院学生の社会調査士・専門社会調査士資格取得支援体制を整備し、取得希望者に対する相談・申請の受付業務を行うとともに、申請に関する学内広報を行う。
2015 年度では後期申請期間より卒業者からの申請受付可能な体制を構築した。また、教務事務センターと連携して 2012 年度より導入した指定科目証明書発行システムの運用を通じ、資格取得相談から申請までの一貫した窓口業務を提供する。

③ 社会調査協会の講習事業への協力

社会調査協会と連携し、同協会が講習事業として実施する専門社会調査士(正規）の資格取得をめざす大学院生向け講習会（S 科目講習会)、および実務者向け講習会（アドバンスド・セミナー）等の開催に協力する。2017 年度は、アドバンスド・セミナー（2018 年 3 月開催予定）への協力を行う。

④ その他対外連携事業

・ICPSR（Interuniversity Consortium for Political and Social Research）の国内利用協議会を通じた会員機関として、その所蔵データ利用の学内広報につとめる。
・ICPSR 本部が実施するサマープログラム（セミナー)、および ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報につとめる。

（3）社会調査フォーラムの開催

統計的社会調査の理論と方法に関する実践例の紹介を企図とするセミナー（社会調査フォーラム）を、1 回以上開催する。具体的には、外部から社会調査の経験がある研究者を招聘し、社会調査の実際をテーマとする研究会の開催を通して、その理論や方法を広く学ぶ機会を設ける。または、社会調査データを活用している実務家をお招きし、活用に至った経緯やその実践と意義に関する講演会を開催する。

（4）社会調査に関わるコンサルティング事業

① 学内研究者と大学院学生に対し、社会調査の企画・設計に関する相談を受付ける。
② 学内部局に対して、社会調査の企画・設計の諸方法に関する相談、および統計分析に関する相談を受付ける。

2017 年度事業報告

（1） 社会調査データアーカイブ（RUDA）プロジェクト

立教大学社会調査データアーカイブ（Rikkyo University Data Archive: RUDA）は、研究目的や教育目的の二次分析のため、以下のとおりデータセットを公開している。2017 年度は 4 データセットを新たに公開した。また、昨年度の RUDA のバージョンアップに伴い、新たに英語を併記したパンフレットを作成し、国外を含めた学会で広報活動を行っている。2017 年 5 月 22 日～27 日には、海外のデータアーカイブの最新の動向を

探るため、アメリカ合衆国カンザス州で行われた IASSIST Annual Conference に朝岡助教・濱本助教が参加し、関連研究者にむけた RUDA の広報活動を行った。
また、DDI を基盤としたメタデータの公開および他アーカイブとの連携事業のため、NII との協力体制を以下のメンバーで構築し、共同研究「国内社会科学系データアーカイブの公開・検索ポータル構築に向けたフィージビリティスタディ」を行っている。

＜プロジェクトメンバー＞

松本　康（社会情報教育研究センター　センター長・社会学部 教授）
岩間　暁子（立教大学 社会学部 教授）
朝岡　誠（立教大学 社会情報教育研究センター 助教）
前田　豊（立教大学 社会情報教育研究センター 助教）
山地　一禎（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター　センター長）
船守　美穂（国立情報学研究所　准教授）
林　正治（国立情報学研究所サイバーセキュリティ研究開発センター　特任助教）

〈2017 年度　公開データセット：4 件〉

公開日	調査名
2017 年 4 月 24 日	くらしの中の文化と政治・社会意識についてのおうかがい
2017 年 6 月 26 日	生活と防災についての市民意識調査
2017 年 10 月 30 日	読書と公共図書館に関する調査　訪問面接調査
2017 年 10 月 30 日	読書と公共図書館に関する調査　インターネット調査

（2）セミナー・各種イベント開催

近年、統計的な社会調査データを用いた実証分析や統計・社会調査教育への関心が高まり、社会調査データアーカイブを通じて公開されたデータを利用した二次分析や統計教育が注目されている。
2017 年度は以下のフォーラム・セミナーを開催した。

◆CSI 社会調査データ活用セミナー

〈第 1 回〉

テ ー マ：社会調査データの使い方・探し方
－データアーカイブ活用法－
開催日時：2017 年 6 月 1 日（木）　18：30～20：00
場　　所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室
講　　師：前田　豊（社会情報教育研究センター 助教）
参加人数：3 名

〈第 2 回〉

テ ー マ：社会調査データの解析 1 ～回帰分析編～

開催日時：2017 年 10 月 25 日（水） 18：30～20：00

場　　所：池袋キャンパス 8 号館 8503 教室

講　　師：朝岡　誠（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：8 名

〈第 3 回〉

テ ー マ：社会調査データの解析 2～因子分析編～

開催日時：2017 年 11 月 8 日（水） 18：30～20：00

場　　所：池袋キャンパス 8 号館 8503 教室

講　　師：前田　豊（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：5 名

◆第 8 回 CSI 社会調査フォーラム

テ ー マ：質的比較分析（QCA）と社会的カテゴリー分析への応用

開催日時：2018 年 2 月 16 日（金） 18：00～19：30

場　　所：池袋キャンパス太刀川記念館　第 1・第 2 会議室

講　　師：石田　淳（大阪経済大学人間科学部　准教授）

参加人数：10 名

◆共催・後援セミナー等

◆社会調査協会　第 4 回アドバンスド社会調査セミナー

一般社団法人社会調査協会のアドバンスド社会調査セミナーの開催協力を行った。本講習会は、大学院学生や社会調査に関連する知識や技能の向上をめざす研究者・実務者に向けた講習会である。

日程：2017 年 9 月 11 日（月）～14 日（木） 9：00～17：50

場所：池袋キャンパス 11 号館 A201 教室、8 号館 8506 教室

－9 月 11 日(月)：

藤原　翔(東京大学) - ロジスティック回帰分析の基礎

－9 月 12 日(火)：

保田　時男(関西大学) - マルチレベル分析の考え方、マルチレベル分析の実際（SPSS 実習）

－9 月 13 日(水)：

森　大輔(熊本大学) - 質的比較分析（QCA）：量的分析と質的分析の中間的な手法

川端　亮(大阪大学) - 質的データの計量分析：自由回答とインタビューのコンピュータ・コーディング

－9 月 14 日(木)：

福田　昌史(読売新聞社) - 世論調査の現状と課題

古賀　正義(中央大学) - 質的調査の有効性と分析方法を考える：インタビューによる調査の実践を体験しながら

社会調査士資格関連事業、社会調査に関わるコンサルティング事業、その他対外連携事業（ICPSR）については別途記載する。

（3）2017 年度事業を振り返って

RUDA にかんしては、今年度より社会調査実習の授業や学内の教員を対象に寄託をお願いした結果、目標数を超える 4 つのデータセットをクリーニングし、公開することができた。そして、CSI 社会調査データ活用セミナーは学部生を対象とした内容を想定していたが、結果的には量的分析に初めて触れるという院生や教員の参加者が多かった。今後、社会調査フォーラムも含めて、カリキュラムの方針や広報の方法を再考する必要があるだろう。

3） 統計教育部会

2017 年度事業計画

（1）全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営

『社会調査入門』の管理・運営

『データ分析入門』の管理・運営

『社会調査の技法』の管理・運営

『データの科学』の管理・運営

『多変量解析入門』の管理・運営

（2）全学共通カリキュラム・オンデマンド授業用教材の評価と検証

受講生の学習履歴データ、モニター学生からのコメントなどをもとに、オンデマンド授業用の教材を定量的に評価・検証する。

（3）CSI 統計分析セミナーの開催

学部学生・大学院生・教職員の統計・調査リテラシー向上のための、統計分析セミナーを、オンデマンドで開講する。

（4）統計教育のための教材およびプログラムの新規開発

社会から求められる人材育成のための新たな教育プログラムや教材の開発

（5）統計教育フォーラム・公開講演会の開催

社会調査や統計関係の科目担当者向けの FD を行う場としての統計教育フォーラムや統計教育の開発や推進のための公開講演会を開催する。

（6）「統計検定」の学内試験実施および統計関連の試験導入の検討

立教大学学生が学内で「統計検定」を受験できるための環境を提供するとともに、その準備講座を開講するまたこの他統計教育に関連する試験導入の検討を行う。

(7) 学外統計教育関連行事への共催や後援

スポーツデータ解析コンペティションをはじめとする学内外での統計教育関連の事業への関与を通じ、社会的貢献を行う。

(8) スーパーサイエンススクール選定校との高大連携プログラムの開発実施

統計やデータ活用に関する高大連携プログラムの開発と実施を行う。

(9) 大学間連携共同教育推進事業への取組

拡大版 JINSE に参加して、加盟大学と継続して統計教育改善の活動を行う。

(10) データサイエンス副専攻の導入に向けた準備

新設されるデータサイエンス副専攻の導入に向けた準備を行う。

(11) オンデマンド科目の英語版の作成

既存の提供科目であるオンデマンド科目について、英語による翻訳を行い、英語版のコンテンツを作成する。

2017 年度事業報告

（1）セミナー・ガイダンス・研修の開催

◆CSI 統計分析セミナー

CSI 統計分析セミナーは Blackboard を通じて配信するオンデマンド型のセミナーである。既存の SPSS 統計解析（Basic コース／SEM コース）および R 統計解析（基本コース）に加え、2017 年度は R 統計解析（多変量解析コース）を作成し、配信を開始した。

【現在公開中のコース】

1．SPSS 統計解析（Basic コース）

統計解析ソフト SPSS に関する基本動作を習得し、簡単な統計処理を行うための技術を身に着ける。また同時に、関連する統計学の基本的な事項についても学習する。基本統計量に加え、質的変数、量的変数に焦点を絞り、これらの変数を適切に集計、解析をできるレベルの操作を行う。

講　　師：大橋　洸太郎（社会情報教育研究センター 助教）

2017 年度登録者数：11 名

2．SPSS 統計解析（SEM コース）

統計解析ソフト Amos に関する基本動作を習得し、SEM によるモデル構築と分析結果の確認を行うための技術を身に着ける。また同時に、一般的によく用いられるモデルの紹介を行い、それらの分析を通してモデル構築や評価に習熟する。

講　　師：大橋　洸太郎（社会情報教育研究センター 助教）

2017 年度登録者数：4 名

3．R 統計解析（基本操作コース）

統計解析環境 R の動作に関して、R の起動からデータの保存、終了の仕方などの基本操作に習熟する。また、スクリプトの書き方を通じて、簡単なデータハンドリングの技術を身に着ける。

講　　師：大橋　洸太郎（社会情報教育研究センター 助教）

2017 年度登録者数：36 名

4．R 統計解析（基本操作コース 2）

・R を使って 1 変数の集計ができるようになる。

・R を使って 2 つの質的変数の関係性を把握する。

・R を使って 2 つの量的変数の関係性を把握する。

講　　師：大橋　洸太郎（社会情報教育研究センター 助教）

2017 年度登録者数：17 名

5．R 統計解析（多変量解析コース 1）

第 1 回　R/R studio の使い方

第 2 回　重回帰分析

第 3 回　分散分析（1, 2 要因参加者間実験）

講　　師：大橋　洸太郎（社会情報教育研究センター 助教）

2017 年度登録者数：18 名

6．R 統計解析（多変量解析コース 2）

第 1 回　R/R Studio で因子分析

第 2 回　R/R Studio でクラスター分析

第 3 回　これまでのまとめ（春学期/秋学期）

講　　師：大橋　洸太郎（社会情報教育研究センター 助教）

2017 年度登録者数：6 名

◆統計検定ガイダンス・受験対策セミナー

学生が学内で統計検定を受験できるよう、立教大学では団体受験制度を導入している。社会情報教育研究センターでは、自主的な統計学習のサポートとして、統計検定ガイダンスや受験対策セミナーを実施している。

2017 年度は 6 月 18 日および 11 月 26 日に統計検定を実施した。2 級および 3 級の試験対策として、オンデマンドコンテンツを配信している。また、統計調査士の受験者向けには試験対策セミナーを 2 回開催した。第 1 回目は一般参加を受け付け、3 名が参加した。いずれのセミナーも、録画した内容を社会情報教育研究センターホームページ上で公開し、セミナーに参加できなかった学生に対しても幅広く受験対策支援を行った。

◆春季　統計検定対策ガイダンス

〈池袋キャンパス〉

開催日時：2017 年 4 月 19 日（水）12：30～13：00

場　　所：池袋キャンパス　メーザー・ラーニング・コモンズ

講　　師：山口　和範（経営学部 教授）

参加人数：6 名

〈新座キャンパス〉

開催日時：2017 年 4 月 18 日（火）12：30～13：00

場　　所：新座キャンパス　8 号館 N823 教室

講　　師：浅井　亜希（社会情報教育研究センター 教育研究コーディネーター）

参加人数：3 名

◆秋季　統計検定対策ガイダンス

〈池袋キャンパス〉

開催日時：2017 年 9 月 25 日（月）12：30～13：00

場　　所：池袋キャンパス　メーザー・ラーニング・コモンズ

講　　師：山口　和範（経営学部 教授）

参加人数：4 名

〈新座キャンパス〉

開催日時：2017 年 9 月 26 日（火）12：30～13：00

場　　所：新座キャンパス　8 号館 N822 教室

講　　師：山口　和範（経営学部 教授）

参加人数：2 名

◆高校生向け統計教育セミナー

2017 年度の高校生向け統計教育セミナーは、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）およびスーパーグローバルハイスクール（SGH）の生徒を招いて下記のとおり実施された。限られたデータから、限られた時間内に判断を行う「統計的思考力」を培っていく体験型授業を行った。

講義内容：統計的思考力：仮説の検証―データを活用し判断する―

開催日時：2017 年 7 月 28 日（金）10：00～16：00

場　　所：池袋キャンパス　8 号館 8502 教室

講　　師：山口　和範（経営学部 教授）

参加人数：千葉市立千葉高等学校の生徒および引率教諭　計 23 名

講義内容：地元が抱える課題をデータから探し、解決策を考える！

開催日時：2017 年 9 月 11 日（月）13：00～15：00

場　　所：池袋キャンパス　本館 1104 教室

講　　師：山口　和範（経営学部 教授）

参加人数：上田高等学校の生徒および引率教諭　計 43 名

（２）共催・後援セミナー等

◆第 7 回スポーツデータ解析コンペティション

一般社団法人日本統計学会等が主催する、第 7 回スポーツデータ解析コンペティションの事務局業務をおこなった。また、本学からの参加グループが以下の賞を受賞した。

《特別賞（SEM 因果分析賞）》

テーマ：ＮＢＬ送りバント研究分析～無死 1 塁における最適行動～

参加者：田中健、森西美光、菅野晃司、安楽萌子、窪田夏奈、山口和範（立教大学）

◆ ＪＭＯＯＣ『統計学Ⅲ』対面授業

講義内容：データ分析の基礎および推測統計の方法、および多変量データ解析について、基礎から実際の応用例まで学習する。

開催日時：2017 年 7 月 1 日（土）13：00～16：30

場　　所：池袋キャンパス　11 号館 A301 教室

主　　催：日本統計学会、立教大学社会情報教育研究センター

講 演 者：岩崎 学（成蹊大学・横浜市立大学 教授）、
渡辺 美智子（慶應義塾大学 教授）

◆第 68 回統計セミナー

テ ー マ：人口減少下の人口移動　～地域における人口の動きを概観する～

開催日時：2018 年 1 月 25 日（水）13：30～17：00

場　　所：池袋キャンパス　太刀川記念館多目的ホール

主　　催：一般財団法人日本統計協会、立教大学社会情報教育研究センター

共　　催：日本統計学会、統計関連学会連合

後　　援：総務省統計局

講 演 者：山田　幸夫（総務省 統計局 統計調査部 国勢統計課　課長）
市村　次夫（株式会社小布施堂　株式会社枡一市村酒造場　代表取締役）
中川　雅貴（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部　主任研究官）

◆職員向け研修協力

昨年度に引き続き 2017 年度も、人事部と教務部より依頼を受け、本学職員に向けた統計研修を行った。

◆統計研修

講義内容：今必要とされる統計的思考力―経験と勘に加えて必要な統計的思考力

開催日時：2017 年 8 月 24 日（木）14：00～17：00

主　　催：本学人事部

場　　所：池袋キャンパス　太刀川記念館第 1 会議室

講　　師：山口　和範（経営学部 教授）

参加人数：6 名（2 年目職員）

◆情報リテラシー 研修

開催日時：［Day2］　8 月 28 日（月）13：30～15：30

［Day3］　9 月 13 日（水）13：30～15：30

主　　催：本学教務部

場　　所：［Day2］　池袋キャンパス 12 号館　第 3 ・第 4 会議室

［Day3］　池袋キャンパス 12 号館　第 3 ・第 4 会議室

講　　師：［Day2］　大橋　洸太郎（社会情報教育研究センター助教）

［Day3］　山口　和範（経営学部 教授）

テ ー マ：セッション II「教務関連データを加工・分析し、意思決定支援に活用する」

対　　象：本学職員

（3）オンデマンド科目の新規作成および改修

2017 年度は全学共通カリキュラムのオンデマンド科目「データ分析入門」および「データの科学」の英語版を作成した。2018 年度より全学共通カリキュラム科目として、開講する予定である。授業内容については、シラバスを参照されたい。また、既存のオンデマンド科目「データ分析入門」および「データの科学」は、英語科目にあわせる形で、R による統計分析を行えるよう、大幅な改修を行った。

◆新規開講科目

◆Introduction to Statistics 1

講　　師：山口和範、Jimmy, A. Doi（California Polytechnic State University）

◆Introduction to Statistics 2

講　　師：山口和範、Jimmy, A. Doi（California Polytechnic State University）

その他、大学間連携共同教育推進事業への取組、「統計検定」の学内試験実施および統計関連の試験導入の検討については、別途記載する。データサイエンス副専攻の導入に向けた準備については、以下コメントを参照されたい。

（4）2017 年度事業を振り返って

2018 年度より全学生を対象としたグローバル教養副専攻の Discipline Course で、Data Science 副専攻がスタートする。これまでの国内および学内外との連携の下、統計教育部会での統計教育の充実のための活動を行ってきたが、その成果を発揮する必要がある。2018 年度以降についても、統計教育の質保証、充実のため、一層のこれまでの種々の活動を継続する。

3

資格支援事業

1） 社会調査士資格支援

2） 統計検定支援

3　資格支援事業

1）社会調査士資格支援

「社会調査士」と「専門社会調査士」は、いずれも一般社団法人社会調査協会が認定するものであり、社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的として作られた資格である。

社会情報教育研究センターでは、社会調査部会の助教が資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科すべての連絡責任者となり、学生の資格取得や各学部・学科の認定科目申請の支援を行うなど、立教大学内の社会調査士資格にかんする窓口業務を担っている。

◇社会調査士・専門社会調査士　資格制度導入学部・研究科

・全学共通カリキュラム（オンデマンド授業）
・社会学部　全学科
・経済学部　全学科
・経営学部　全学科
・観光学部　交流文化学科
・コミュニティ福祉学部　コミュニティ政策学科
・現代心理学部　心理学科
・大学院　社会学研究科
・大学院　コミュニティ福祉学研究科

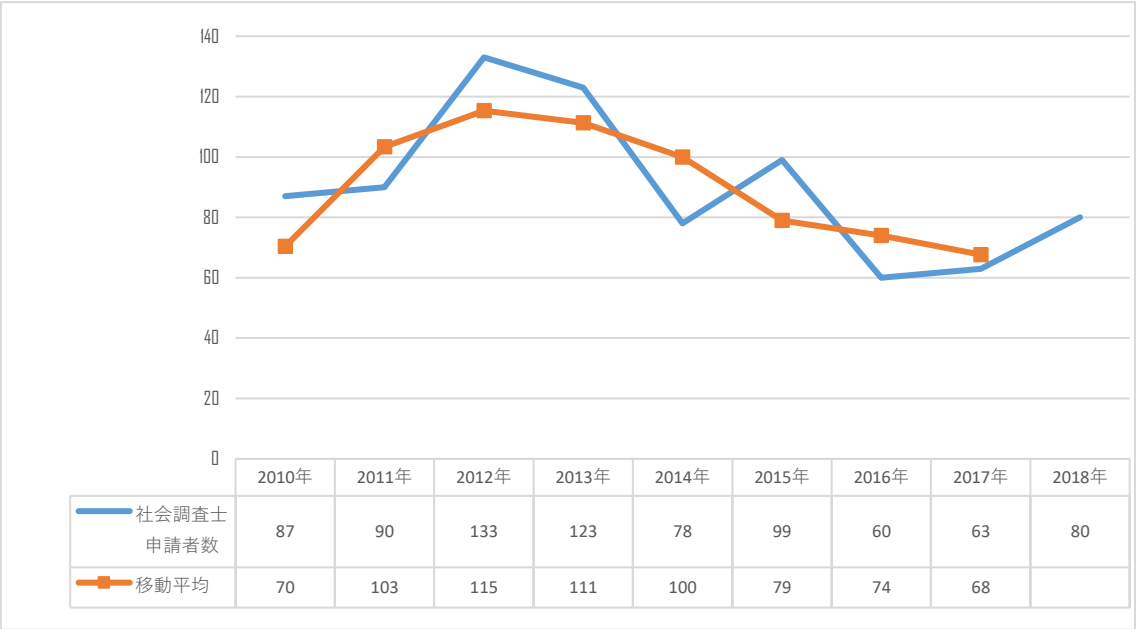
〈資格申請〉

2017 年度の社会調査士・社会調査士（キャンディデイト）・専門社会調査士の資格申請・資格取得者数は以下の通りである。

社会調査士　資格申請者数：76 名（2018 年 3 月申請分）
専門社会調査士　資格申請者数：4 名（2018 年 3 月申請分）
社会調査士（キャンディデイト）資格取得者数：64 名（春学期 38 名・秋学期 26 名）

（2018 年 3 月 31 日時点）

【社会調査士申請者数の推移】



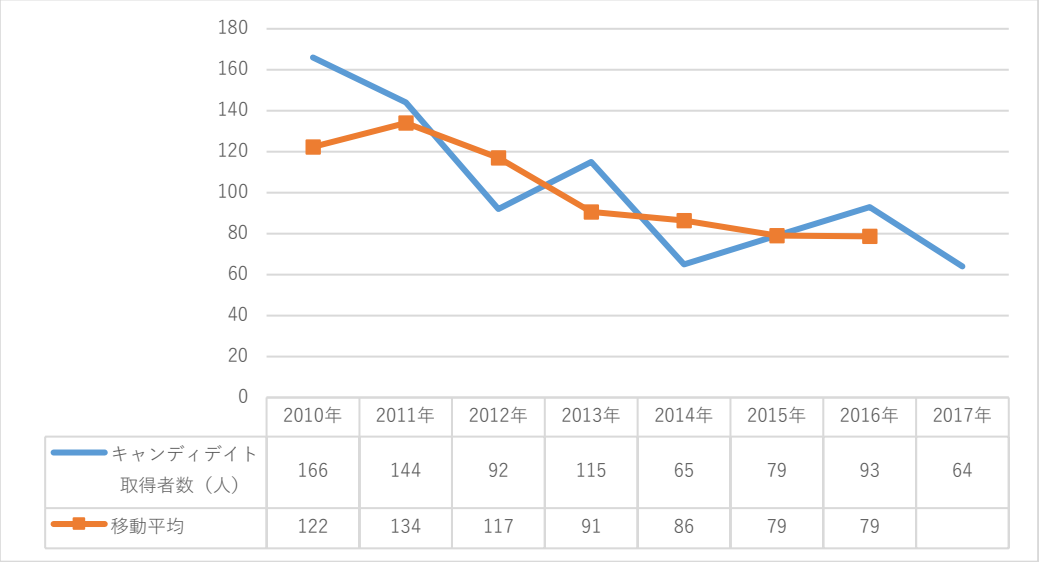
【学部学科別社会調査士・専門社会調査士申請者数（2018 年 3 月)】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部	観光学部	現代心理学部	大学院		合計
	現代文化学科	社会学科	メディア社会学科			コミュニティ政策学科		心理学科	社会学研究科	コミュニティ福祉学研究科	
第18回（2018年春）	5	14	6	2	1	20	4	24	3	1	80

上記のグラフは、2010 年度から 2017 年度末までの、社会調査士ならびに専門社会調査士の申請者数の推移を示している。2012 年をピークに、なだらかに減少傾向がつづいているが、2017 年度の社会調査士申請者数は、ここ 2 年に比べると増加した。2017 年度学部学科別の社会調査士申請者数は上記表のとおりである。申請者数増の要因として考えられるのは、数年前から現代心理学部やコミュニティ福祉学部の連絡責任者からの要請で社会調査士にかんするガイダンスを、社会調査士 G 科目の授業内で実施したことである。

◆本学における社会調査士資格ならびにキャンディデイト資格申請の推移

【社会調査士（キャンディデイト）取得者数の推移】



本学における社会調査士資格のキャンディデイト申請者数は、上記の表のとおり推移している。2010 年度に、教務事務センターより窓口業務が移管され、社会情報教育研究センターでの申請受付が始まった。2017 年度のキャンディデイト申請者数は 64 名にとどまり、前年度に比べると 29 名の減少となった。

【2017 年度学部学科別　社会調査士（キャンディデイト）取得者数】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	観光学部	現代心理学部 心理学科	合計
	社会学科	メディア社会学科	現代文化学科						
2017年10月認定者数（春学期申請）	2	2	1	2		14		17	38
2017年12月認定者数（秋学期申請）	7	5	5	4	1	2	1	1	26
合計	9	7	6	6	1	16	1	18	64

上記の表は、2017 年度の学部学科別社会調査士（キャンディデイト）取得者数を示している。社会学部では、他学部に比べて社会調査士科目を取得しやすいカリキュラム設計がなされているため、毎年一定数の学生が申請に訪れている。一方、コミュニティ福祉学部や現代心理学部では、各学部の連絡責任者の関心が高く、授業内で積極的に告知したため、学生の資格の認知度を高めることができ、資格取得者の増加につながったと考えられる。

〈科目申請〉

2017 年度より新たに Google ドライブを活用して、各学部・学科・研究科への説明書類の配布や、各学部から申請科目の情報収集を行った。2012 年度より行っていた社会学部の連絡責任者との打ち合わせは、今年度は「必要に応じて行う」こととし、メールや電話により随時問い合わせに対応するようにした。その結果、全学合わせても、問い合わせは兼任講師への依頼状況共有の連絡（1 件）や Google ドライブの使用方法にかん

するもの（2 件）にとどまった。Google ドライブを活用することによって、説明のわかりにくさを減らし、情報収集がしやすくなったといえる。しかしながら、その分、事前にファイルを準備しなければならない等、昨年度に比べると準備を前倒しで始める必要が生じた。

2017 年度は資格取得資格対応カリキュラムを導入する全学部・学科・研究科合計で 107 科目の認定を受けた。2018 年度の対応科目として 116 科目（2018 年度 112 科目、2017 年度 4 科目）の認定申請手続を 2017 年 12 月に行った。

2） 統計検定支援

一般財団法人統計質保証推進協会主催による統計検定は、2017 年度は、春季は 6 月、秋季は 11 月の 2 回実施された。

統計検定は、文部科学省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施された試験であり、統計教育の質保証との関連で位置づけられる。社会情報教育研究センターでは 2011 年度より団体受験の案内・申込受付から統計検定対策セミナー開催に至るまで、統計検定受験者にたいする一元的な支援を行っている。

2017 年度は拡大版 JINSE（統計教育連携ネットワーク）に加盟したため、JINSE 版統計検定を受験する本学学生に対しては一般の受験料の 4 割引の金額が適用された。あわせて、統計検定ガイダンス、統計検定対策セミナー、統計調査士試験対策セミナーも実施した。

◆春季日程

実施日：2017 年 6 月 18 日（日）

会　場：池袋キャンパス 8 号館　8201、8202 教室

	準 1 級	2 級	3 級	4 級	合計
受験申込者	1	23	14	1	39
実受験者	1	17	10	0	28

◆秋季日程

実施日：2017 年 11 月 26 日（日）

会　場：池袋キャンパス 9 号館　9B03 教室

	1 級	2 級	3 級	4 級	統計調査士	専門 統計調査士	合計
受験申込者	0	22	35	1	5	0	63
実受験者	0	16	31	1	5	0	53

4

教育支援事業

1)　正課科目の開発・提供

2)　各種コンテンツの開発および改修

3)　コンペティション参加を希望する学生への教育指導

4　教育支援事業

1）正課科目の開発・提供

2017 年度も引き続き全学共通カリキュラムのオンデマンド授業「社会調査入門」・「社会調査の技法」・「データ分析入門」・「データの科学」・「多変量解析入門」の運営を行った。

なお、これら 5 科目は社会調査士資格認定科目となっている。

◆社会調査入門

【 担 当 者 】　朝岡　誠（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】　前田　豊（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】　社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】　85 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆社会調査の技法

【 担 当 者 】　朝岡　誠（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】　前田　豊（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】　社会調査の技法的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査士資格認定科目「B」に対応。

【受講者数】　72 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データ分析入門

【 担 当 者 】　大橋　洸太郎（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】　丹野　清美（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】　社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】　73 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データの科学

【 担 当 者 】　大橋　洸太郎（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】　丹野　清美（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】　社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】　55 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆多変量解析入門

【担当者】　濱本　真一（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】　データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講者数】　41 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

1）各種コンテンツの開発および改修

◆オンデマンド授業コンテンツの英語化および改修

オンデマンド授業「データ分析入門」ならびに「データの科学」の 2 科目に対応する英語版科目として「Introduction to Statistics 1」および「Introduction to Statistics 2」を作成した。また、オンデマンド授業「データ分析入門」ならびに「データの科学」を大幅に改修し、R による統計分析を行えるようにした。コンテンツは、全学共通カリキュラムのオンデマンド授業科目として提供する。

◆統計調査士試験対策コンテンツ第 4 版

2017 年度は『統計調査士試験対策コンテンツ　第 4 版』を作成、受験者に配布した。併せて、政府統計部会が過去の出題から精選した「統計調査士試験得点源対策問題集」を使用し、統計調査士対策セミナーを 2 回開催した。

2）コンペティション参加を希望する学生への教育指導

統計教育部会では、日本統計学会スポーツ統計分科会が主催している「スポーツデータ解析コンペティション」への参加を希望する立教大学の個人参加の学生をチームとして編成し、支援を行うべく体制を整えていたが、2017 年度は、個人参加の学生からの申込みは寄せられなかった。

5

研究支援事業

1）調査研究コンサルティング

2）統計セミナーサポートスタッフ

3）対外連携活動

5 研究支援事業

1） 調査研究コンサルティング

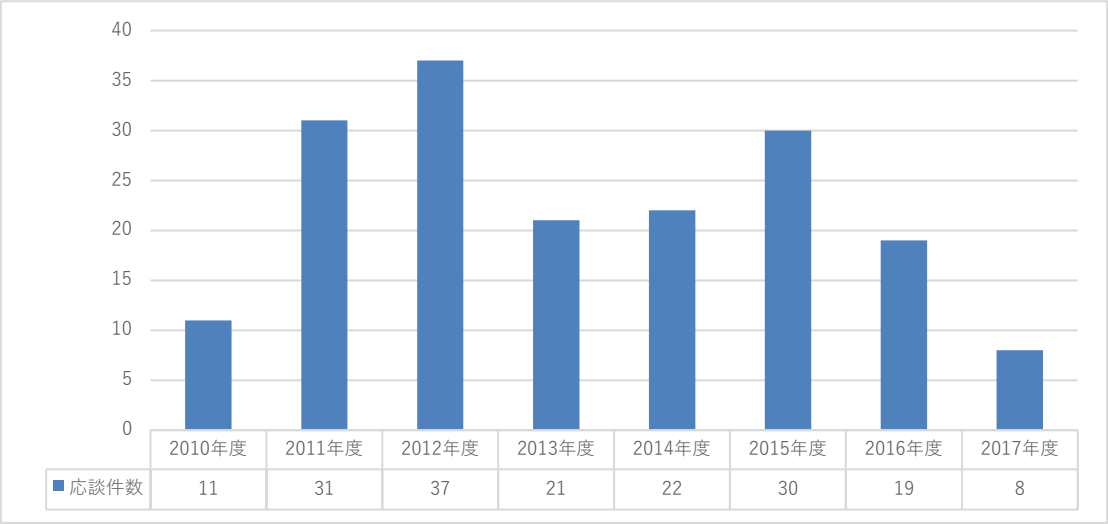
社会情報教育研究センターでは、立教大学の大学院学生や教職員を対象に調査研究に関するコンサルティングを行っている。主な相談内容は、学内アンケートや社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計分析に関する相談である。多くは一回にとどまらず、その後の調査経過も含めて継続的なコンサルティングとなっている。

2017 年度のコンサルティング応談件数は 8 件であった。2016 年度までは、独立研究科の大学院学生からの修士論文に関する相談が多かったが、昨年度からの変更点として、コンサルティングを申込む際にコンサルティングフォームに相談者の指導教授の氏名や連絡先を記入する欄を設けた。このことにより、コンサルティングを受ける前に指導教授に連絡する必要が生じ、コンサルティングの申込数の減少につながったものと考えられる。

【2017 年度社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数】

	個人による依頼	部署による依頼
ESD 研究所	1	1
キャリアセンター	1	
異文化コミュニケーション研究科	2	
学生部学生厚生課		1
経済学研究科	1	
総長室教学改革課	1	
総計	**6**	**2**

【社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数　年度別推移】



2） 統計セミナーサポートスタッフ

2015 年度よりメディアセンターと連携し、大学院学生のアルバイトスタッフが社会情報教育研究センター主催の各種セミナーでのセミナーサポート業務および図書館での SPSS などの統計ソフトウェアに関する応談業務に就いている。2017 年度は、セミナーサポートが 5 件、統計ソフトウェアの応談が 4 件であった。

3） 対外連携活動

◆社会調査協会

一般社団法人社会調査協会と連携し、同協会が実施する講習会事業の開催協力を行っている。2017 年度はアドバンスド社会調査セミナーへの開催協力を行った。詳細は「2-2)各部会事業計画および事業報告　社会調査部会」の「◆共催・後援セミナー等」に掲載している。

◆日本統計協会

一般財団法人日本統計協会と連携し、毎年セミナーを共催している。2017 年度は「第 68 回統計セミナー」を共催した。詳細は「2-3)各部会事業計画および事業報告　統計教育部会」の「（２）共催・後援セミナー」に掲載している。

◆日本マーケティング協会

公益社団法人日本マーケティング協会主催「統計調査士対策講座　公的統計実務編」の公式テキストとして『統計調査士対策コンテンツ第四版』が使用された。

◆ICPSR（本部および国内利用協議会）

ICPSR（Inter-university Consortium for Political and Social Research：政治・社会調査のための大学間コンソーシアム、本部：ミシガン大学 社会調査研究所）は、社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集・保存し、それらを学術目的での二次分析のために提供する世界最大級のデータアーカイブでもある。立教大学は、国内利用協議会（ハブ機関：東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター）を通じて加盟している ICPSR の会員機関である。

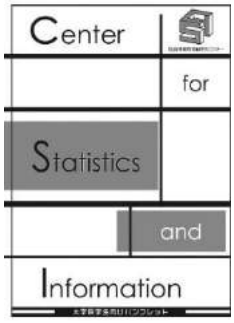
社会情報教育研究センターは、この ICPSR のデータアーカイブ機能の利用についての学内広報を担当するとともに、ICPSR 本部が実施するサマープログラム（セミナー）、さらには ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報も行っている。今年度は 10 月 11 日から 13 日にアナーバ（アメリカ）にて 2017 Biennial ICPSR Meeting（OR meeting）が開催され、国内利用協議会から派遣する加盟校として、朝岡助教が参加した。

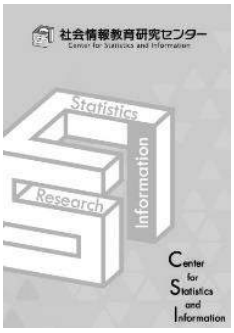
6

出　版　物

6　出版物

- 『統計調査士対策コンテンツ』
- 『東温市を支える中小零細企業　2016 年東温市事業所現状把握調査』
- 『東温市を支える中小零細企業　2016 年東温市事業所現状把握調査　概要版』
- RUDA パンフレット（日英同時表記）
- 社会情報教育研究センターリーフレット（利用者ガイド）（日本語版・英語版）
- 社会情報教育研究センターパンフレット（日本語版・英語版）
- 大学院学生向けパンフレット（日本語版・英語版）
- 社会情報教育研究センター研究紀要『社会と統計』（第 4 号）





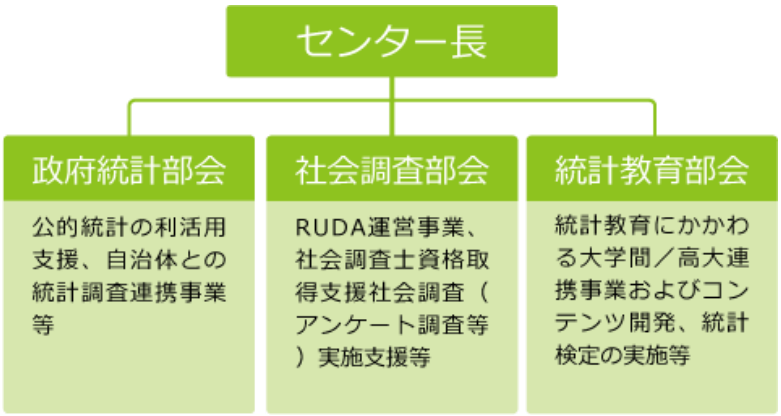
7

組織図および

構成メンバー

7　組織図および構成メンバー

社会情報教育研究センターの組織図は以下の通りである。



■センター長

松本 康（社会学部 教授）

《政府統計部会》

■部会リーダー

櫻本 健（経済学部　准教授）

■部会メンバー

坂田 大輔（社会情報教育研究センター 助教）（2017 年 5 月末まで）

安藤 道人（経済学部　准教授）

濱本 真一（社会情報教育研究センター　助教）

則竹 悟宇（社会情報教育研究センター　リサーチアシスタント）

■研究協力者

菊地 進（本学　名誉教授）

藤野 裕（明海大学　経済学部　講師）

鈴木 雄大（経済学部　助教）

小西 純（(公財)統計情報研究開発センター）

■連携機関

法政大学日本統計研究所

《社会調査部会》

■部会リーダー

岩間 暁子（社会学部　教授）

■部会メンバー

松本 康（社会学部　教授）

高木 恒一（社会学部　教授）

朝岡 誠（社会情報教育研究センター　助教）

前田 豊（社会情報教育研究センター　助教）

多田 はるみ（社会情報教育研究センター　リサーチ・アシスタント）

佐藤 裕亮（社会情報教育研究センター　リサーチ・アシスタント）

渡辺 浩平（社会情報教育研究センター　リサーチ・アシスタント）

《統計教育部会》

■部会リーダー

山口 和範（経営学部　教授）

■部会メンバー

都築 誉史（現代心理学部　教授）

大橋 洸太郎（社会情報教育研究センター　助教）

丹野 清美（社会情報教育研究センター　助教）

Nyaung, Dim En （社会情報教育研究センター　客員研究員）

■研究協力者

大川内 隆朗（帝京大学　総合教育センター　講師）

《社会情報教育研究センター事務局》

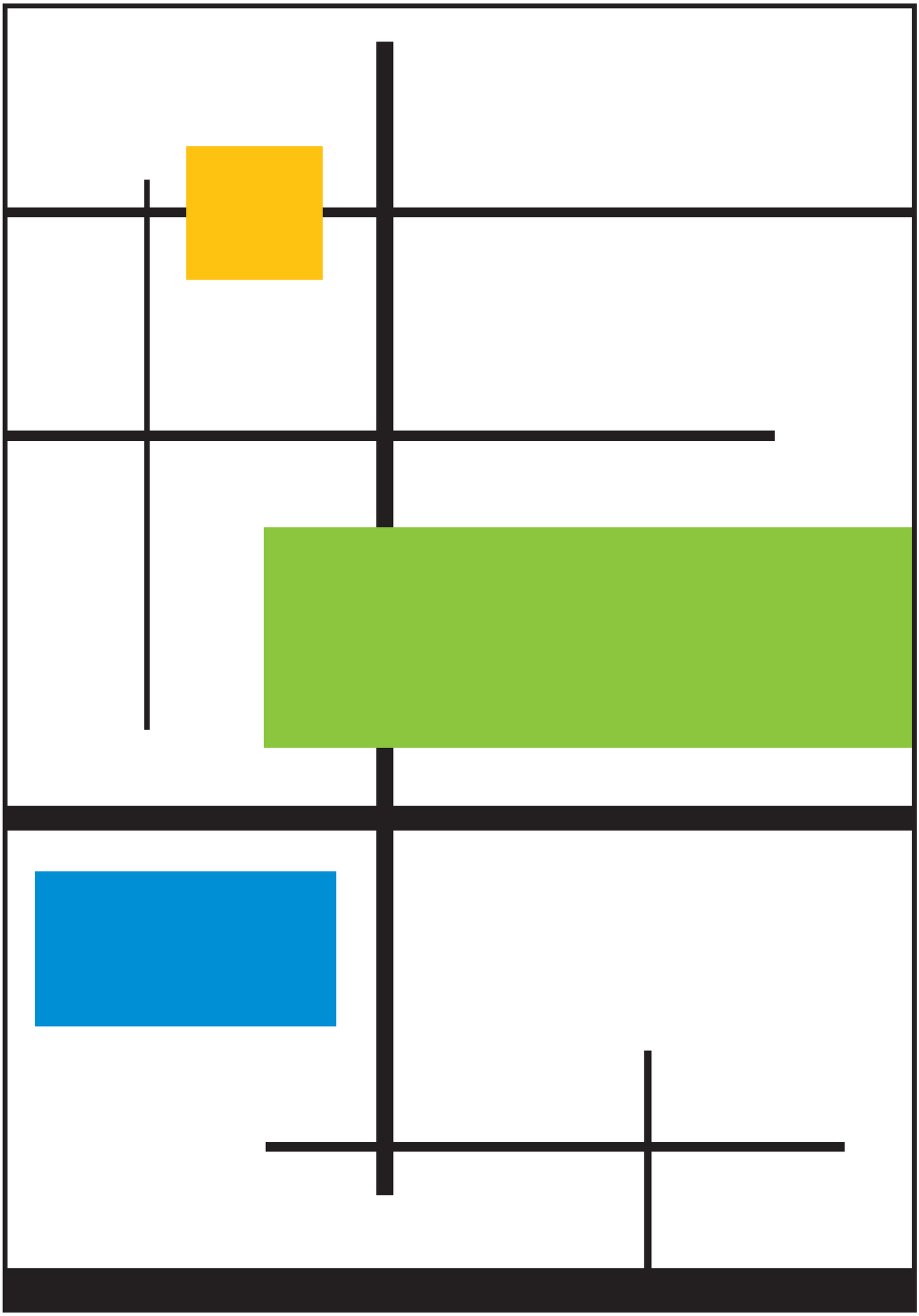
毛利 立夫（メディアセンター 課長）

重田 根見子（メディアセンター 課員）

木田 英樹（メディアセンター 課員）

加藤 倫子（教育研究コーディネーター）

浅井 亜希（教育研究コーディネーター）

服部 好美（社会情報教育研究センター・ROM 派遣）

石幡 繁子（社会情報教育研究センター・ROM 派遣）